

第68回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日 時：令和元年11月9日(土) 8：55～15：20

口演発表 9：00～12：00

14：10～15：20

第68回特別講演 13：00～14：00

国際学会参加報告

会 場：奥羽大学歯学部附属病院棟5階臨床講義室

福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

お 願 い

会員の方へ：

1. 受付は会場入口に設けます。
2. 会場の座席は順番につめて着席して下さい。
3. 討議にはマイクをご利用下さい。

発表の要領：

1. 口演の演者は発表当日までに、所定の事後抄録を金 (E-mail : h-kon@den.ohu-u.ac.jp) までテキスト添付にてご送信下さい。(800字程度)
2. 口演発表
 - 1) 液晶プロジェクターによる口演
 - ①単写のみです。
 - ②事前にデータファイルの提出をお願いします。
※USBフラッシュメモリーで提出して下さい。
※データファイルはMicrosoft社のPower Pointに限ります。またファイルサイズは10Mバイト以下でお願いいたします。
 - ③学会当日はお持ちいただいたデータの内容をこちらで用意したコンピュータで実行しますので、発表用のPCを当日ご用意していただく必要はありません。
 - ④こちらで用意できるコンピュータのOSはWindowsおよびMac OSのみです。これらの環境下での動作確認を必ず行って下さい。
 - ⑤学会開催前日午後6時に会場において試写を行います。データをお持ちになり学会会場にお集まり下さい。
※ソフトウェアのバージョン等によっては用意したPCでは動作しない場合も考えられますので、可能でしたらご自分のPCと電源も一緒にお持ち下さい。
 - ⑥運営を支障なく円滑に行うため、ファイルの容量を極力抑えて下さいますようお願いいたします。
 - ⑦利益相反 (COI) の開示：COIの有無に関わらずスライドでCOI状態を開示頂きます。全ての口演者は、2枚目のスライドに「利益相反 (COI) 開示について」の題目で報告をしてください。
 - 2) 口演時間
演者は、口演開始10分前に次演者席に着席して下さい。
口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。
時間の経過については、下記の合図で知らせます。
7分経過 (口演終了1分前)；ベル1回
8分経過 (口演終了)；ベル2回
10分経過 (質疑終了)；ベル3回
なお、口演終了後も座長の交代まで会場内でお待ち下さい。
3. I.C.S報告
 - ①午前9時30分までに所定のパネル、机に展示して下さい。
 - ②撤去は午後3時40分以降をお願いいたします。

座長をなさる方へ：

1. 口演時間の厳守をお願いします。
2. 次の座長の方は5分前までに次座長席にお着き下さい。

第68回奥羽大学歯学会プログラム

8:55～開会の辞

大野 敬 会長

一口演発表（午前の部、学位口演9演題）

9:00～9:30

座長 高橋 慶 壮

1. 根管洗浄方法の比較・検討

○矢口剛士¹、佐藤穂子²、山田嘉重²、木村裕一²
(奥羽大・大学院・歯内・歯周療法¹、奥羽大・歯・歯科保存²)

研修コード0410 関連項目 (1) 0499 (2) 1099

2. Tri Auto ZX 2 を用いた根管の穿通・グライドパスと根管形成の評価

○渡邊 崇¹、杉田俊博^{1,2}
(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科¹、奥羽大・大学院・総合診療歯科²)

研修コード1101 関連項目 (1) 0410 (2) 0499

3. 乳臼歯コンポジットレジン破折防止に関する研究 ―内開き窩洞について―

○関野貴大¹、岡田英俊²、島村和宏³
(奥羽大・大学院・小児歯科¹、奥羽大・歯・生体材料²、奥羽大・歯・成長発育歯学³)

研修コード0801 関連項目 (1) 0412 (2) 0901

9:30～10:00

座長 廣瀬 公 治

4. 腸内細菌叢構成細菌及び免疫機能の変化と*Candida albicans*の腸管内への定着

○森下貴祥、玉井利代子、清浦有祐
(奥羽大・大学院・口腔感染症)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

5. Bis-GMAがNIH3T3細胞に及ぼす影響

○河村徳之
(奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正)

研修コード0802 関連項目 (1) 1107 (2) 1102

6. 酸性pHeによるMMP-9活性化経路におけるPAKの役割

○川嶋雅之¹、前田豊信²、鈴木厚子²、加藤靖正²、高田 訓³
(奥羽大・大学院・顎口腔外科¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²、奥羽大・歯・口腔外科³)

研修コード1107 関連項目 (1) 1102 (2) 0308

10:00～10:10 休憩

10:10 ~ 10:40

座長 金 秀 樹

7. 口腔乾燥の自覚と唾液量および口腔湿潤度との相関

○高橋文太郎、高田 訓
(奥羽大・歯・口腔外科)

研修コード0707 関連項目 (1) 0502 (2) 0599

8. 窒素非含有ビスフォスフォネートによる炎症性サイトカイン産生抑制のメカニズム

○北條健太郎、玉井利代子、清浦有祐
(奥羽大・大学院・口腔感染症)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

9. 歯科用コーンビームCT画像による下顎無歯顎前歯部領域の顎骨構造の観察

○田中直毅¹、船川竜生¹、酒井悠輔¹、河村享英²、宇佐美晶信³、関根秀志^{1,2}
(奥羽大・大学院・咬合機能修復¹、奥羽大・歯・歯科補綴²、奥羽大・大学院・口腔機能解剖³)

研修コード0202 関連項目 (1) 0603 (2) 1101

— 口 演 発 表 (午前の部、一般口演8演題) —

10:40 ~ 11:20

座長 川 合 宏 仁

10. 地域医療支援歯科における障がい者歯科診療の現状について

○佐々木重夫、福島和美、宮嶋 唯、箱崎麗子、清野晃孝、瀬川 洋、杉田俊博
(奥羽大・歯・病院)

研修コード0844 関連項目 (1) 0333 (2) 0855

11. 奥羽大学歯学部附属病院における最近の初診患者の動向 —第4報—

○清野晃孝、渡邊 崇、保田 穰、佐藤健太、北條健太郎、山家尚仁、
小松憲明、鈴木海路、福島和美、宮嶋 唯、向井雄一郎、渡辺 聡、
渡部議之、梅村浩二郎、箱崎麗子、佐々木重夫、杉田俊博
(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科)

研修コード0199 関連項目 (1) 01090 (2) 0111

12. 生体構造学講座法歯学5年間における鑑定実績報告 —画像からの個人識別における考察を加えて—

○花岡洋一
(奥羽大・歯・生体構造)

研修コード0106 関連項目 (1) 9999 (2) 9999

13. ヒト歯を用いた放射線被ばく線量評価について

○廣瀬公治¹、大野 敬²、島村和宏³、池山丈二⁴、海野 仁⁴、佐々木啓一⁵
(奥羽大・歯・口腔衛生¹、奥羽大・歯・口腔外科²、奥羽大・歯・成長発育歯³、
福島県歯科医師会⁴、東北大・大学院・口腔システム補綴学分野⁵)

研修コード0101 関連項目 (1) 1199 (2) 0199

11:20 ~ 12:00

座長 関根秀志

14. リグロス® を用いた歯周組織再生療法の予後評価

○児玉りか¹、山崎厚作¹、山崎幹子²、高橋慶壮¹
(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・大学院・口腔病理²)
研修コード0501 関連項目 (1) 1002 (2) 0202

15. 奥羽大学歯学部附属病院における過去10年間の矯正歯科患者の統計学的観察

○黒田栄子¹、笹谷哲郎¹、酒井佑佳子²、村杉 嶺²、河村徳之²、
村上彩乃¹、岡志央理¹、三宅茉麻¹、双石博之¹、山野辺晋也¹、
細谷尚史¹、川鍋 仁¹、竜 立雄¹、板橋 仁¹、福井和徳¹
(奥羽大・歯・成長発育歯¹、奥羽大・大学院・顔面口腔矯正²)
研修コード0104 関連項目 (1) 0203 (2) 0802

16. ポリ-L-乳酸製生体内吸収性プレートの術後安定性に関する臨床的検討

○西 祐也¹、川崎カオル¹、小嶋忠之¹、金 秀樹¹、
高田 訓¹、岡 志央理²、川鍋 仁²、福井和徳²
(奥羽大・歯・口腔外科¹、奥羽大・歯・成長発育歯²)
研修コード0502 関連項目 (1) 0802 (2) 0599

17. 各種隔壁法による修復コンポジットレジンの変形形態の違いに対する検討

○勝田拓磨、北原 海、小鷲啓典、野口紗瑛、菊井徹哉、山田嘉重
(奥羽大・歯・歯科保存)
研修コード0403 関連項目 (1) 0412 (2) 1003

12:00 ~ 13:00 休憩

13:00 ~ 14:00 特別講演

座長 高田 訓

取れない歯痛、合わない咬合への対処法
—なぜ、今、歯科で「心身医学」なのか?—

東京医科歯科大学大学院
豊福 明 教授

14:00 ~ 14:10 休憩

一口演発表(午前の部、一般口演7演題)

14:10 ~ 14:40

座長 山森徹雄

18. 難治性てんかんを有するLennox-Gastaut症候群患者の全身麻酔下歯科治療経験

○川合宏仁¹、古山 昭¹、大須賀謙二¹、山崎信也²
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・口腔外科²)
研修コード0804 関連項目 (1) 0302 (2) 0303

19. 先天性部分(性)無歯症患者に対する包括的歯科治療の1例

○三宅茉麻¹、川鍋 仁¹、山野辺晋也¹、宗形真希²、船川竜生²、関根秀志²、福井和徳¹
(奥羽大・歯・成長発育歯¹、奥羽大・歯・歯科補綴²)
研修コード0802 関連項目 (1) 0803 (2) 0603

20. 多職種協働により口底癌術後の摂食嚥下障害から経口摂取再開となった1例
鈴木史彦^{1,2}、北條健太郎¹、山家尚仁¹、小松憲明¹、鈴木海路¹、渡邊 聡¹、
渡部議之¹、梅村浩二郎¹、高橋文太郎²、小嶋忠之²、金 秀樹²、山森徹雄³
(奥羽大・歯・病院¹、奥羽大・歯・口腔外科²、奥羽大・歯・歯科補綴³)
研修コード0704 関連項目 (1) 0805 (2) 0502

14:40 ~ 15:20

座長 木村裕一

21. 頬神経と周囲ランドマークとの位置関係の計測
○柳瀬琴美、伊澤 輝、大谷洋平
(奥羽大学・歯学部第三学年)
研修コード0502 関連項目 (1) 1101 (2) 0401
22. 当科における直接塗抹法と液状化検体細胞診に関する臨床的検討
○鈴木菜月¹、関口静里奈¹、千葉駿一郎²、橘高あずさ²、
御代田駿²、川原一郎²、金 秀樹²、高田 訓²
(奥羽大・歯学部学生¹、奥羽大・歯・口腔外科²)
研修コード0299 関連項目 (1) 0502 (2) 0599
23. 本学学生における講義出席率の向上に対する出席評価の有効性
○南波春佳、松本知生、池田敏和、金子良平、内山梨夏、安樂英莉、山森徹雄
(奥羽大・歯・歯科補綴)
研修コード0199 関連項目 (1) 0699 (2) 0602
24. 奥羽大学歯学部生の読解力測定と読解力向上のための試み
○伊東博司¹、菊地尚志²、宇佐美晶信³、遊佐淳子¹、櫻井裕子¹、本多真史⁴、芹川雅光³
(奥羽大・歯・口腔病態解析制御・口腔病理学¹、奥羽大・歯・教養・物理学²、
奥羽大・歯・生体構造・口腔解剖学³、奥羽大・歯・教養・日本語学⁴)
研修コード1199

15:20 ~ 閉会の辞

清浦有祐 副会長

— 国際学会参加報告 —

1. 95th European Orthodontic Society (EOS)
(June 17-21, 2019, Nice Acropolis Convention Center, France)
Relationship between maximum tongue pressure and tongue pressure during
swallowing and evaluation of perioral muscle pressure in children
○ Hiroyuki Kurabeishi, Tatsuo Ryu, Makoto Nezu and Kazunori Fukui

口 演 発 表 抄 録 (学 位 口 演 発 表)

9 : 00 ~ 9 : 10

1. 根管洗浄方法の比較・検討

○矢口剛士¹、佐藤穩子²、山田嘉重²、木村裕一²

(奥羽大・大学院・歯内・歯周療法¹、奥羽大・歯・歯科保存²)

歯内治療において根管内を無菌状態に近づけることは重要である。その成果により治療後の予後が変わると考えられているためである。今回はヒト抜去歯を用いて超音波とレーザーによる根管洗浄方法を行い、それぞれの方法で蒸留水 (DW)、次亜塩素酸ナトリウム (NaClO)、EDTA を使用し実体顕微鏡と走査電子顕微鏡により根管洗浄効果の比較検討した。結果としてレーザー≧超音波、EDTA >次亜塩素酸ナトリウム=蒸留水だった。

研修コード0410 関連項目 (1) 0499 (2) 1099

9 : 10 ~ 9 : 20

2. Tri Auto ZX 2 を用いた根管の穿通・グライドパスと根管形成の評価

○渡邊 崇¹、杉田俊博^{1,2}

(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科¹、奥羽大・大学院・総合診療歯科²)

Tri Auto ZX 2 (モリタ製作所) は Optimum Glide Path (以下 OGP) を用いることで、これまでは不可能であったエンドモーターによる根管の穿通を可能としているが、これを詳細にした報告はない。

本研究では、従来の手用ステンレススチールファイルと比較して OGP を使用した際の穿通までの所要時間と根管の形態変化について比較検討を行った。

研修コード1101 関連項目 (1) 0410 (2) 0499

9 : 20 ~ 9 : 30

3. 乳白歯コンポジットレジンの破折防止に関する研究 - 内開き窩洞について -

○関野貴大¹、岡田英俊²、島村和宏³

(奥羽大・大学院・小児歯科¹、奥羽大・歯・生体材料²、奥羽大・歯・成長発育歯学³)

乳歯の齲蝕は近年幻想傾向にあるものの齲蝕は多く、特に乳白歯部に認められる。齲蝕による歯冠修復において、コンポジットレジンの開発が進むにつれ、MI の概念が見直され、必要以上に歯質切削を行うことを許容しないとされている。本研究は、MI の概念を踏襲しつつ乳白歯の齲蝕の広がりを考慮した、3種類の内開き窩洞を設定し歯質の薄い乳歯の歯冠修復において破折防止につながる要因について検討したので報告する。

研修コード0801 関連項目 (1) 0412 (2) 0901

9 : 30 ~ 9 : 40

4. 腸内細菌叢構成細菌及び免疫機能の変化と*Candida albicans*の腸管内への定着

○森下貴祥、玉井利代子、清浦有祐
(奥羽大・大学院・口腔感染症)

Candida albicans の腸管内への移行と定着に及ぼす腸内細菌叢と免疫機能の影響を口腔カンジダ症のマウスモデルを使用して、明らかにすることを試みた。その結果、*Candida albicans* の腸管内への定着には腸内細菌叢の特定菌種の増減が影響することが明らかになった。また、マウスの免疫機能の修飾も *Candida albicans* の腸管内への定着に参与する可能性を示す結果が得られた。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

9 : 40 ~ 9 : 50

5. Bis-GMAがNIH3T3細胞に及ぼす影響

○河村徳之
(奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正)

ブラケット装着後、アレルギーの既往がなくブラークコントロールが良好にもかかわらず歯肉増殖が生じることがある。今回我々は、この現象はボンディング材中の Bisphenol A - glycidyl methacrylate (Bis-GMA) が主要な原因ではないかと考え、*in vitro* でマウス線維芽細胞株 NIH3T3における Bis-GMA の影響を解析した。

研修コード0802 関連項目 (1) 1107 (2) 1102

9 : 50 ~ 10 : 00

6. 酸性pHeによるMMP-9活性化経路におけるPAKの役割

○川嶋雅之¹、前田豊信²、鈴木厚子²、加藤靖正²、高田 訓³
(奥羽大・大学院・顎口腔外科¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²、奥羽大・歯・口腔外科³)

腫瘍細胞のエネルギー代謝は主に好氣的解糖に依存することが知られている。これにより細胞外 pH が低下すると、がん細胞は上皮間葉転換 (EMT) を起こし、MMP-9の発現促進につながっている。PAKは2つのグループに分類され、グループIIは多種の癌で過剰発現されていると報告されているが、不明な点が多い。今回、我々はマウスメラノーマ細胞を用いて、細胞外酸性 pH による MMP-9発現調節における PAK グループIIの PAK6、PAK5/7の役割について解析を行ったので報告する。

研修コード1107 関連項目 (1) 1102 (2) 0308

10：10～10：20

7. 口腔乾燥の自覚と唾液量および口腔湿潤度との相関

○高橋文太郎、高田 訓
(奥羽大・歯・口腔外科)

口腔乾燥症の診断と評価には唾液分泌機能の測定が一般的であるが、実際の臨床では測定された検査値が正常であることも多く、自覚的口腔乾燥症状と検査値との整合性の検討が必要となる。そこで本研究ではVASとサクソテスト、安静時唾液、口腔水分度を計測し、その整合性を検討した。対象は2014年から2018年に、口腔乾燥を主訴に奥羽大学歯学部附属病院口腔外科を受診した16例とした。口腔乾燥症の病態把握にはサクソテスト、口腔水分計および安静時唾液量の測定等複数種類の検査を行うことが望ましいと考えられた。

研修コード0707 関連項目 (1) 0502 (2) 0599

10：20～10：30

8. 窒素非含有ビスフォスフォネートによる炎症性サイトカイン産生抑制のメカニズム

○北條健太郎、玉井利代子、清浦有祐
(奥羽大・大学院・口腔感染症)

骨吸収抑制薬ビスフォスフォネートの服用者に起こる顎骨骨髄炎または顎骨壊死には、口腔内細菌に対する宿主の免疫応答が関与していることが示唆されている。特に、窒素を含むビスフォスフォネートの炎症性サイトカイン産生増加作用によって骨髄炎が増悪すると考えられる。一方、窒素非含有ビスフォスフォネートの服用者では、顎骨骨髄炎または顎骨壊死はほとんど起こっていない。

本研究では、窒素非含有ビスフォスフォネートの1種であるエチドロネートが炎症性サイトカイン産生に与える影響を明らかにする。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

10：30～10：40

9. 歯科用コーンビームCT画像による下顎無歯顎前歯部領域の顎骨構造の観察

○田中直毅¹、船川竜生¹、酒井悠輔¹、河村享英²、宇佐美晶信³、関根秀志^{1,2}
(奥羽大・大学院・咬合機能修復¹、奥羽大・歯・歯科補綴²、奥羽大・大学院・口腔機能解剖³)

下顎無歯顎正中部及び側切歯犬歯間の骨形態計測をおこなった。試料は下顎無歯顎の本大学歯学部実習用遺体10体を用いた。通法に従いCBCTにて撮影し、得られた画像において下顎骨外形に沿ってMPR画像を作成し、正中からオトガイ孔までの下顎骨外形のアーチ上における距離の40%部を側切歯犬歯間部とした。正中部と左右側切歯犬歯間部でそれぞれ計測をおこなった。正中部と左右側切歯犬歯間部の垂直的距離に有意差は認められなかったが、最大幅径と骨面積率に有意差が認められた (P<0.05)。左右側切歯犬歯間部より正中部が埋入時のポジショニングに際し、自由度が高くとれる可能性が示唆された。また、正中部の荷重負担能力が高い可能性があるとし唆された。

研修コード0202 関連項目 (1) 0603 (2) 1101

口 演 発 表 抄 録 (一 般 口 演 発 表)

10 : 40 ~ 10 : 50

10. 地域医療支援歯科における障がい者歯科診療の現状について

○佐々木重夫、福島和美、宮嶋 唯、箱崎麗子、清野晃孝、瀬川 洋、杉田俊博
(奥羽大・歯・病院)

奥羽大学歯学部附属病院は2016年(平成28年)、さらなる地域社会の健康増進ならびに福祉の向上に貢献することを目的に新しい診療科として地域医療支援歯科を開設した。当科の業務は、これまでの臨床研修歯科医の管理・教育業務に加え、摂食嚥下リハビリテーション・訪問歯科診療・障がい者歯科診療の3つの専任診療科となり、初めて障がい者の専任部署が設置された。今回は2016年からの障がい者歯科診療の経緯について報告する。

研修コード0844 関連項目 (1) 0333 (2) 0855

10 : 50 ~ 11 : 00

11. 奥羽大学歯学部附属病院における最近の初診患者の動向 - 第4報 -

○清野晃孝、渡邊 崇、保田 穰、佐藤健太、北條健太郎、山家尚仁、
小松憲明、鈴木海路、福島和美、宮嶋 唯、向井雄一郎、渡辺 聡、
渡部議之、梅村浩二郎、箱崎麗子、佐々木重夫、杉田俊博
(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科)

奥羽大学歯学部附属病院は、歯科医療に求められる安全で安心、医療技術の向上、医療サービスの充実に心がけており、ニーズの多様化に対応すべく、専門外来を設け地域医療機関からは検査および特殊な疾患の治療などの依頼を受けている。近年の地域環境の著しい変化と本院の歯科医師の数的構成に対応すべく初診対応を原則午前のみに変更してからの、本院の初診患者の動向について、本年と過去の比較検討を行ったので報告する。

研修コード0199 関連項目 (1) 01090 (2) 0111

11 : 00 ~ 11 : 10

12. 生体構造学講座法歯学5年間における鑑定実績報告 - 画像からの個人識別における考察を加えて -

○花岡洋一
(奥羽大・歯・生体構造)

平成26年11月1日、関東地区以外では初となる、専任教授を置いた法歯学教育研究組織が奥羽大学に誕生してから丸5年が経過した。

今回は第64回本学会において報告した鑑定実績に、新たに2年間の実績を追加すると共に、主として防犯カメラの画像における個人識別の手法と着眼点についての考察を加えてご報告申し上げます。

研修コード0106 関連項目 (1) 9999 (2) 9999

11：10～11：20

13. ヒト歯を用いた放射線被ばく線量評価について

○廣瀬公治¹、大野 敬²、島村和宏³、池山丈二⁴、海野 仁⁴、佐々木啓一⁵
(奥羽大・歯・口腔衛生¹、奥羽大・歯・口腔外科²、奥羽大・歯・成長発育歯³、
福島県歯科医師会⁴、東北大・大学院・口腔システム補綴学分野⁵)

骨や歯などの硬組織、特に歯は、その形成過程において放射性ストロンチウム等を取り込み、代謝されることなく蓄積性に保持される。従って、歯の中に保持されている放射性同位元素の量は、乳歯が形成される乳幼児期の内部被ばくの状況を忠実に反映している。我々は、このような性質に着目、福島第一原発事故後の住民の放射線被ばく線量を推定するために、ヒト歯（脱落乳歯）を収集し、これを用いた検索を平成26年より行なっている。そこで今回、その概要を報告する。

研修コード0101 関連項目 (1) 1199 (2) 0199

11：30～11：40

14. リグロス[®]を用いた歯周組織再生療法の予後評価

○児玉りか¹、山崎厚作¹、山崎幹子²、高橋慶壮¹
(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・大学院・口腔病理²)

歯周組織再生療法としてサイトカイン療法（エナメルマトリックスタンパク質、PDGFおよびFGF-2）が臨床応用されている。演者らは、2016年から保険適用となったFGF-2製剤（以後リグロス[®]）を用いた歯周組織再生療法をこれまでに78例実施し、治療成績を経時的に評価している。本報告では、本学歯学部附属病院歯周病科において患者13名（21歯）にリグロス[®]を用いて実施した歯周組織再生療法の予後評価を報告する。

研修コード0501 関連項目 (1) 1002 (2) 0202

11：40～11：50

15. 奥羽大学歯学部附属病院における過去10年間の矯正歯科患者の統計学的観察

○黒田栄子¹、笹谷哲郎¹、酒井佑佳子²、村杉 嶺²、河村徳之²、
村上彩乃¹、岡志央理¹、三宅茉麻¹、双石博之¹、山野辺晋也¹、
細谷尚史¹、川鍋 仁¹、竜 立雄¹、板橋 仁¹、福井和徳¹
(奥羽大・歯・成長発育歯¹、奥羽大・大学院・顔面口腔矯正²)

本研究の目的は、当科における過去10年間に矯正歯科治療を開始した患者の動向および初期治療として選択された治療装置の傾向を知ることにある。

調査期間は2008年10月から2018年9月までの10年間とし、奥羽大学歯学部附属病院矯正歯科において治療を開始した1,819名を対象とした。診療録から患者の実態および初期治療で選択された装置について調査した。

研修コード0104 関連項目 (1) 0203 (2) 0802

11:50 ~ 12:00

16. ポリ-L-乳酸製生体内吸収性プレートの術後安定性に関する臨床的検討

○西 祐也¹、川崎カオル¹、小嶋忠之¹、金 秀樹¹、
高田 訓¹、岡 志央理²、川鍋 仁²、福井和徳²
(奥羽大・歯・口腔外科¹、奥羽大・歯・成長発育歯²)

顎矯正手術における骨接合には従来、生体親和性の高いチタン製プレートが広く用いられてきた。しかし近年、生体内吸収性材料の研究が進み、ポリ-L-乳酸製生体内吸収性(PLLA)プレートが骨接合材として使用されることが多くなっている。PLLAプレートは除去の必要がないという利点を持つが、強度に難点があることの指摘もある。

本研究では、上下顎同時移動術のPLLAプレートを用いた際の術後安定性を評価し検討したので報告する。

研修コード0502 関連項目 (1) 0802 (2) 0599

12:00 ~ 12:10

17. 各種隔壁法による修復コンポジットレジンの変形形態の違いに対する検討

○勝田拓磨、北原 海、小鷲啓典、野口紗瑛、菊井徹哉、山田嘉重
(奥羽大・歯・歯科保存)

臼歯隣接面におよぶ窩洞に対する直接法による歯冠修復処置では隔壁が使用される。今回隔壁法の違いによりどの程度隣接面変形形態の違いが生じるかについて検討した。隔壁法としてセルロイドストリップスを用いる方法と各種メタルストリップスを使用する方法を評価した。その結果、それぞれの方法において利点・欠点があるものの、セクショナルマトリックスとリング状リテーナーを使用する方法が最も再現性が優れていた。

研修コード0403 関連項目 (1) 0412 (2) 1003

14:10 ~ 14:20

18. 難治性てんかんを有するLennox-Gastaut症候群患者の全身麻酔下歯科治療経験

○川合宏仁¹、古山 昭¹、大須賀謙二¹、山崎信也²
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

Lennox-Gastaut 症候群は小児期に発症する年齢依存性の難治性てんかんで、主に、脳波異常および精神発達遅滞を合併する。今回われわれは、Lennox-Gastaut 症候群を合併する患者に対し、数回にわたり全身麻酔下に歯科治療を行ったので、若干の知見を加えて報告する。

研修コード0804 関連項目 (1) 0302 (2) 0303

14：20～14：30

19. 先天性部分（性）無歯症患者に対する包括的歯科治療の1例

○三宅茉麻¹、川鍋 仁¹、山野辺晋也¹、宗形真希²、船川竜生²、関根秀志²、福井和徳¹
(奥羽大・歯・成長発育歯¹、奥羽大・歯・歯科補綴²)

多数歯の先天性欠如は、歯の位置の異常、過蓋咬合、空隙歯列など様々な歯列不正の原因となる。このような症例に対して歯科矯正治療を行う際は、歯の移動に伴う歯根や歯周組織への負担を避けるため補綴処置を含めた包括的歯科治療が必要である。

今回我々は全身疾患を伴わず、上顎左側側切歯、上顎右側犬歯、上顎左右側第一小白歯、上顎左右側第二小白歯、下顎右側側切歯、下顎右側第一小白歯、下顎左右側第二小白歯の計10歯が先天性欠如している症例、いわゆる「先天性部分（性）無歯症」に対して包括的歯科治療を行なったので、その概要を報告する。

研修コード0802 関連項目 (1) 0803 (2) 0603

14：30～14：40

20. 多職種協働により口底癌術後の摂食嚥下障害から経口摂取再開となった1例

鈴木史彦^{1,2}、北條健太郎¹、山家尚仁¹、小松憲明¹、鈴木海路¹、渡邊 聡¹、
渡部謙之¹、梅村浩二郎¹、高橋文太郎²、小嶋忠之²、金 秀樹²、山森徹雄³
(奥羽大・歯・病院¹、奥羽大・歯・口腔外科²、奥羽大・歯・歯科補綴³)

口底癌の切除術と頸部廓清術が施行された症例への対応において、多職種協働の有効性を経験したので報告する。患者は71歳の男性。術後の経口摂取再開に際し、摂食嚥下機能を評価したところ、舌の運動障害と嚥下時疼痛のためミキサー食で頻回のむせが認められた。また、粒状の食品は舌の上に残留していた。舌背拳上訓練、段階的摂食訓練、口腔ケア、手術部位のケア、上顎義歯の調整を実施したところ、退院時には軟らかい食形態のものまで摂食嚥下機能の改善が認められた。

研修コード0704 関連項目 (1) 0805 (2) 0502

14：40～14：50

21. 頬神経と周囲ランドマークとの位置関係の計測

○柳瀬琴美、伊澤輝、大谷洋平
(奥羽大学・歯学部第三学年)

顎関節や筋突起周囲への手術侵襲が口腔頬粘膜の知覚異常を惹起する場合がある。頬神経のランドマークには筋突起や下顎下縁が用いられているが、個人差が大きいとの指摘もある。

そこで本研究では、下顎小舌をランドマークとして下顎枝における頬神経との垂直的位置関係を写真撮影とCBCTを用いて測定した。その結果、すべての試料で頬神経は下顎小舌よりも高い位置に存在していた。中には、頬神経と下顎小舌との距離が2mmも満たない資料があった。

今回の結果から、下顎小舌の高さをランドマークとして、それよりも高い位置に切開をいれてしまうと頬神経損傷してしまう可能性が高いと考えた。

研修コード0502 関連項目 (1) 1101 (2) 0401

14 : 50 ~ 15 : 00

22. 当科における直接塗抹法と液状化検体細胞診に関する臨床的検討

○鈴木菜月¹、関口静里奈¹、千葉駿一郎²、橘高あずさ²、
御代田駿²、川原一郎²、金 秀樹²、高田 訓²
(奥羽大・歯学部学生¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

口腔内擦過細胞診は侵襲が小さく、口腔粘膜疾患の簡便なスクリーニング検査である。直接塗抹細胞診（従来法）は、標本作製時の変性や細胞の重複が生じることが問題であった。近年、検体の精度管理に有効である液状化検体細胞診（liquid-based cytology; LBC法）が普及しており、当科では2017年9月より同法を導入している。今回我々は、当科における従来法とLBC法との精度や、臨床的に陰性を疑ったが組織診にて陽性と判定された細胞診実施症例について臨床的検討を行ったのでその概要を報告する。

研修コード0299 関連項目 (1) 0502 (2) 0599

15 : 00 ~ 15 : 10

23. 本学学生における講義出席率の向上に対する出席評価の有効性

○南波春佳、松本知生、池田敏和、金子良平、内山梨夏、安楽英莉、山森徹雄
(奥羽大・歯・歯科補綴)

当講座では第4学年において有床義歯補綴学Ⅱを担当しており、部分床義歯による補綴歯科治療の理論や臨床術式に関する講義を実施している。診察・検査から義歯装着・メンテナンスに至る一連の診療過程について説明するため、講義の欠席はその診療過程に対する知識の欠落、ひいては診療全体の理解不足に結びつくと考えられることから、学生の欠席を抑制することを目的として、総括的評価の一部に出席状況を取り入れている。当科目の出席状況や成績について解析したところ、興味ある知見が得られたため報告する。

研修コード0199 関連項目 (1) 0699 (2) 0602

15 : 10 ~ 15 : 20

24. 奥羽大学歯学部生の読解力測定と読解力向上のための試み

○伊東博司¹、菊地尚志²、宇佐美晶信³、遊佐淳子¹、櫻井裕子¹、本多真史⁴、芹川雅光³
(奥羽大・歯・口腔病態解析制御・口腔病理学¹、奥羽大・歯・教養・物理学²、
奥羽大・歯・生体構造・口腔解剖学³、奥羽大・歯・教養・日本語学⁴)

2018年度本学歯学部1～3年生に、(社)教育のための科学研究所の読解力測定テストであるリーディングスキルテスト(RST)を受験させ、評価結果を得た。その結果と各学年の定期試験成績との関連を解析した。また、RSTの評価コメントで「高度な資格を取得する上で大きな障害になる可能性があります」とされた学生と19年度2年編入生を対象に読解力向上演習を実施し、それら学生に演習前と演習後において読解力測定問題に解答させ、その結果から演習前後の受講学生の読解力の変化をみた。【平成30年度奥羽大学長裁量経費に基づく研究発表】

研修コード1199

第68回特別講演



取れない歯痛、合わない咬合への対処法 -なぜ、今、歯科で「心身医学」なのか?-

東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野

豊 福 明

“ムシ歯の洪水”時代を乗り越え、我が国の歯科医療は世界に冠たるほど進歩し、洗練もされた。一方、どんなに間違いのない処置を施しても、改善しない慢性の痛みや違和感などのため対応に難渋するケースがある一定の割合で経験される。真面目な歯科医師ほど「自らの落ち度では」と悩み、歯科的処置を繰り返し、治療が泥沼化してしまうことが多い。

従来、このような患者群は「心因性」とか「心身症」などと一括りにされ、敬遠されがちであった。しかし、いくら敬遠してもそのような患者は現存する。舌痛症、非定型歯痛、口腔異常感症、Phantom bite syndromeなどは、歯科心身症の代表的疾患である。顎関節症やドライマウスの患者の中に潜んでいることもある。歯科インプラントや歯列矯正が絡むと、問題がさらに複雑になる。

これらの患者に対しては、一時期「リエゾン」と称して精神科医に依存する動きも見られたが、実効力の無さが露呈しただけに終わった。近年は患者層の高齢化し、認知症や種々の身体疾患の合併から歯科心身症の診断や治療がますます複雑化している。

といって、全ての歯科医師がこれらの難治性患者を治療する必要はない。しかし、大病院など高次医療機関では、このような患者を満身に担当できる歯科医師が求められている。日本歯科心身医学会7代目理事長に就任された、北海道医療大学の安彦善裕教授（本学9期生）が本学会で「歯科心身医療の拠点形成」を提唱された所以である。

今回は、(1)どのような患者が“歯科心身症”なのか？ (2)どのくらいの割合で患者が潜んでいるのか？ (3)“歯科心身症”と精神疾患とはどう違うのか？ (4)“歯科心身症”に有効な治療はあるのか？ (5)当面、どう対応すれば良いのか？などを中心に、「患者の長い話を聞かない方法」や「精神科との上手な連携の仕方」などについてもお話ししたい。

【略歴】

- 1990年3月 九州大学歯学部卒業
- 1990年4月 福岡大学医学部歯科口腔外科学教室入局
- 1992年10月 福岡大学病院助手（歯科口腔外科）
- 2001年4月 福岡大学病院講師（歯科口腔外科）
- 2007年3月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
歯科心身医学分野 教授

現在に至る

第69回奥羽大学歯学会予定
日時：令和2年6月20日(土)

—歯学会学会委員—

福井和徳(成長発育歯)*、金 秀樹(口腔外科)*、宇佐美晶信(生体構造)*、
山崎信也(口腔外科)、島村和宏(成長発育歯)、菊井徹哉(歯科保存)、
車田文雄(口腔衛生)、前田豊信(口腔機能分子)、古山 昭(口腔機能分子)、
大橋明石(口腔衛生)

*学会理事
